

三明機工、タイに合併

家電・車工場の自動化設備

ダイカスト関連製造

【静岡】三明機工（静岡市清水区、久保田和雄社長、054・366・0088）は2011年1月にもタイの離型材メーカーのエクスタシア（バンコク市）と合併会社「エクスタサンメイカニカル」を設立し、現地でダイカストマシン関連の自動化設備の製造に乗り出す。タイでは自動車や家電メーカーの工場集積が進んでおり、生産現場の自動化ニーズが高まっていることに対応する。13年12月期に売上高1億円を見込む。

合併会社の資本金は2000万円。出資比率はエクスタシアが51%、三明機工が49%。社長には久保田社長が就く。当初、5〜7人でスタートする。部品加工や組み立ては現地の協力工場に委託し、合併会社は検査やライン設計、試運転などを手がける。工場はエクスタシアの工場（チョンブリー県）を活用する。3次元CADシステムなどの設備は三明機工が日本から移設し、進出リスクを最小限

に抑える。営業活動はエクスタシアが担当する。タイ国内だけでなく、中国などの周辺地域にも供給する。三明機工はロボットやFAシステム、フラットパネルディスプレイ製造ライン、ダイカストマシン関連の自動化システム、铸造プラントなどを展開している。国内では液晶関連需要の伸びなどをを受け、11年3月期の売上高は26億円を見込む。海外での受注を底上げするためにも、液晶生産設備や太陽光発電関連設備に力を入れて5年後に売上高50億円を目指す。

に抑える。営業活動はエクスタシアが担当する。タイ国内だけでなく、中国などの周辺地域にも供給する。

三明機工はロボットやFAシステム、フラットパネルディスプレイ製造ライン、ダイカストマシン関連の自動化システム、铸造プラントなどを展開している。国内では液晶関連需要の伸びなどをを受け、11年3月期の売上高は26億円を見込む。海外での受注を底上げするためにも、液晶生産設備や太陽光発電関連設備に力を入れて5年後に売上高50億円を目指す。